

平塚柔道物語 6 7

濱名淳教師のこぼ

平塚柔道協会 会長 奥山晴治

青木愛と仁藤愛の人生に大きく影響を与えた横須賀学院高校の女子柔道指導者・濱名淳教師の「卒業生に贈ることば」に私も大きく感銘を受けた。現代の柔道界に理想と具体案を示したこと、生徒に対する誠実さは指導者としても一人の人間としても学ぶべきことが多い。

「61期・柔道部3年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。振り返れば、あなたが過ごした高校時代は、柔道界・特に女子柔道界にとって激震の3年間でした。オリンピック金メダリストの起こしたセクハラ事件を端緒に、強豪高校の体罰問題が次々に明らかになりました。それらは、一個人、一高校の問題に止まらずに、全日本女子強化選手に対するヘッドコーチの暴行事件発覚にまでつながり、さらには全柔連自体の体質改善問題に波及しました。・・・中略・・・日本柔道界はその長い歴史上で最悪の時を迎え、横須賀学院柔道部はそのささやかな歴史上でもっとも前進している。そんな時に、今日出席してくれているOBの青木愛が『アメトーク』という超人気番組への出演の機会をくれました。所詮はバラエティ番組ですし、我々が選ばれて出たという訳ではありません。しかし、私たちは、はからずも日本中に向かって、我々の流儀を大きな声で宣言することになってしまいました。しかも、伝統的な柔道の暗い歴史とは真っ向から対立する形です。おかげで『天下布睨』（笑顔で勝ち進む、笑顔で試合を楽しみ、笑顔で一本を目指す）は次のステージに入るチャンスを得ました。その節目の時にあなたがいてくれて本当によかったと思います。余談ですが、実は、この我々の流儀のきっかけをくれたのは仁藤という選手でした。仁藤が微笑みながら信じられない力を発揮する試合を見て、私たちはこのやり方に踏み切る勇

気を持てたのです。奇しくも、青木と仁藤は同級生、しかも、たった二人しかいない学年でした。仁藤が横須賀学院を今の方向に導き、青木が次のステージに上げてくれるきっかけをくれた。そのことに、奇妙な偶然を感じます。その偶然を現実に紡ぎあげるのが君たちであることが『運命』や『天啓』だと言ったら笑われてしまうでしょうか。『青木、こいつらすげえんだよ。本当に毎日頑張って、毎日踏ん張って、それでも、いつも笑っていて、本当にすげえんだ。お前らの時には泣きながらやっていたことを爆笑しながら、しかも、こともなげにやり遂げてくれる。決して始めから強かった訳じゃない。でも、こいつらはそうやって強くなった。本当に自慢の子たちなんだ。お前たちがつくってくれた横須賀学院の歴史に常に敬意を払い、横須賀学院の歴史に常に気遣い、その上で自分たちの今やれることに全力をつくす。そういう3年間をこいつらは過ごしてきた。娘みたいな歳の子たちだけど、俺はこいつらを心から尊敬している。娘みたいな子たちだからこそ、手放しでこいつらを愛していると言える。みんなに言ってくれないか。いろんところで、大きな声で言ってほしい。こいつらは本物だって、こいつらが、これからの柔道をつくっていくんだって！』こう見えても涙もろいもので、みんなに直接言ったら、私も泣いてしまいそうなので、こうして青木に自慢することで、みんなへの私の思いを伝えることにしました。卒業生のみなさん。私はあなた達を心から信頼しています。」

さらに、濱名教師のはなしは続く。



テレビでの濱名教師